

長洲町「多文化共生」本腰

外国人の人口割合が県内トップの長洲町が「多文化共生社会」の取り組みを強化している。町役場に今春、外国人の総合相談窓口を設置。新型コロナウイルスのワクチン接種では外国人向けの特別枠を設けるなど、日常生活で不安を抱える外国人に寄り添った施策を進める。

外国人の人口割合が県内トップの長洲町が「多文化共生社会」の取り組みを強化している。町役場に今春、外国人の総合相談窓口を設置。新型コロナウイルスのワクチン接種では外国人向けの特別枠を設けるなど、日常生活で不安を抱える外国人に寄り添った施策を進める。

同町の外国人は、二つの臨海工業団地の進出企業などで働く技能実習生が大半を占め、国籍はベトナムを中心にフィリピンや中国、ネパールなど。県観光交流政策課によると、昨年12月の町の人口1万5328人中、外国人は567人と3・7%。県平均1・0%や熊本市の0・9%を大きく



外国人の相談窓口で対応する留学生のファンさん

相談窓口、留学生が対応 ワクチン接種、特別枠で

上回っている。

町は昨春、まちづくり課の担当業務に外国人支援を追加。実習生が働く事業所や区長、消防、警察など必要な支援策について情報交換し、今年4月には役場の正面玄関横に相談窓口を新設した。ベトナム人留学生で英語も話せる崇城大3年のファン・ミン・ヒエウさん(23)が週3日窓口を担当し、残りは担当職員がカバーする。

7月末で相談は89件。在留資格の手続き、ごみ分別の方法、PCR検査の相談から、古着のリサイクル、サッカーの会場探しまで多様な相談が寄せられる。コロナ禍で困窮する外国人と一緒に町社会福祉協議会に出向き、緊急小口資金の申請を手伝ったことも。

ファンさんはフェイスブックも開設し、双方向の情報を

報発信に努める。「外国人が安心して暮らせるように、町の施策や情報を正確に伝えたい」と張り切る。

一方、外国人対象のワクチン接種は8月下旬から町中央公民館でスタート。職域接種を終わっていない接種希望者約410人を3グループに分け、週1日ペースでファイザー製ワクチンを接種し、9月28日までに2回目を終える予定だ。

共同生活をする外国人が多いため、集中的な接種でクラスター(感染者集団)を防ぐ狙いだ。会場には接種手順を説明する4カ国語のパネルを置き、雇用企業との通訳やファンさんが待機する。「工業や農業など、さまざまな分野を支える外国人の不安を取り除く一助になれば」と担当職員。

まちづくり課の長尾恒心課長補佐は「外国人が住んで良かった、(町を離れても)また来たいと思ってもらえる町でありたい」と力を込める。(宮上良一)